

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立忌部小学校）

平成30年9月25日

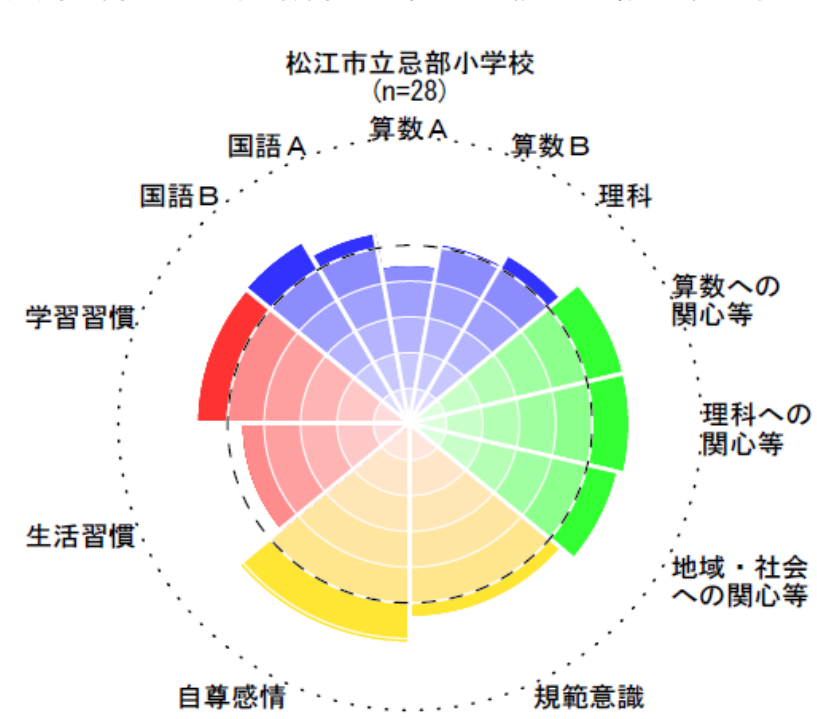
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○各領域において県・全国平均を上回った。特に「書く」領域では正答率が高かった。 ●問題が後半になるにしたがって無解答率が高くなる。時間配分を考えて問題に取り組む必要がある。	・音読や漢字の読み書きなどの練習を継続し、言語知識のさらなる向上を図る。 ・内容や文字数など条件にあった文章を書いたり、要点をまとめて書いたりする学習を継続して行う。また自分の書いた文章を読み返し推敲する習慣をつける。
	B (活用)	○各領域において県・全国平均を上回った。普段から話し合い活動や書く活動を積極的に取り入れ学習に取り組んでいる成果が現れたと考える。 ●条件を理解して文章を書く力が必要である。	・読み応えのある文章に多く触れさせ、ある程度の時間で読み進め、文章をまとまりとしてとらえながら理解する力をつける。
算数	A (基礎)	○数量や図形についての技能を身につけている児童が多い。 ●「数と計算」「図形」の領域で正答率が低く、基礎的な事項について理解を図る必要がある。	・スキルタイムや計算会に向けての取組を強化し、特に図形や計算についての基礎基本の力の向上を図る。 ・公式やきまり、図形などついて、操作活動を通して意味をとらえて実感を伴った理解ができるようにする。
	B (活用)	○「数量関係」の領域での正答率は高く、表に整理したりグラフを読んだりすることはよくできている。 ●選択式の問題での正答率が低く、情報の整理や選択ができず問題の意味がとらえられていないことが多い。	・問題の文章が長く複雑になるほど、題意をとらえにくく、必要な情報が取捨選択できにくい。教科書以外にもいろいろな問題に取り組む、異なる出題の仕方にも慣れるようにする。
理科		○主として活用に関する問題について県・全国平均を上回った。記述式の正答率も高く、観察や実験の結果から分かったことを自分なりの言葉でまとめて表現する力がついてきたと考える。 ●知識・理解面での正答率は県・全国の平均を下回っており、知識の定着を図る必要がある。	・今まで学習したことと関連づけながら学習を進め、知識の定着を図る。 ・学習に主体的に取り組めるように、引き続き学習対象との出会いを大切に授業を構想し工夫する。

(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
○授業や家庭学習、地域での活動に意欲的に取り組んでいる。 ●就寝時刻が遅くなりがちである。	・保健指導やメディアコントロールウィークを利用し、健康的な生活時間の持ち方について考える機会を設ける。 ・引き続き家庭学習の習慣化を図ると共に、内容の幅を地域や社会事象に関わることに広げ学習内容の充実を図る。

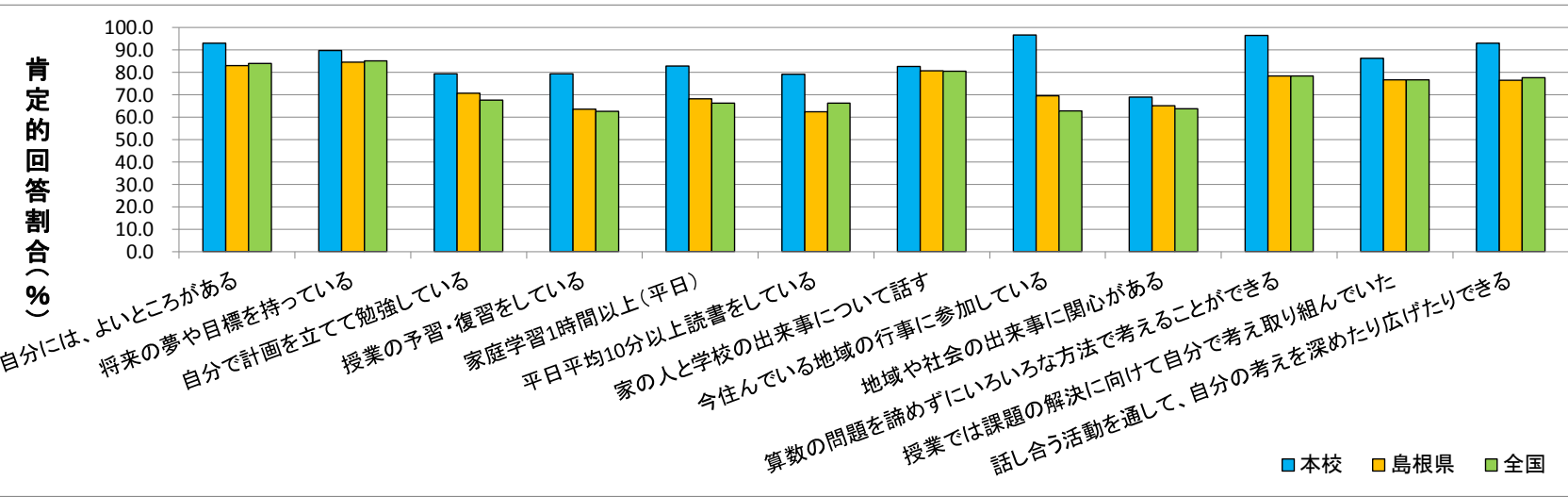
(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学校図書館の活用を通して読書活動の充実を図ると共に、情報活用能力の育成につとめる。 ・漢字会・計算会の取組や、家庭学習、スキルタイム等の時間を活用し、基礎学力の定着を図る。
--

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	74	70	68	70.7
	B	62	57	55	54.7
算数	A	58	62	61	63.5
	B	51	50	49	51.5
理科		63	59	58	60.3

受検者数 28 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。